



東京女子医大麻酔科 グラウンドラウンド

Anesthesia Grand Rounds at TWMU



2024年1月15日（月）

東京時間朝7時-7時50分

教育研究棟3階会議室 & ZOOM

lkyoku.ac@twmu.ac.jpまで

事前登録おねがいします

演者:砂川玄志郎先生

Dr. Genshiro Sunagawa,
MD, PhD

理化学研究所生命機能科学研究センター
冬眠生物学研究リーダー

人工冬眠に挑む
～冬眠の医療への応用～

Artificial Hibernation
～ A strategy to save lives ～

砂川玄志郎先生は小児科医時代、重症患児の悲しい命に遭遇されていたところに、偶然にも世界初・冬眠するサルについての論文*に出会われました。「もしヒトを冬眠させることが可能になれば、搬送中や症状のピーク時を省エネルギー状態で切り抜けることができ、助けられる命を増やせるのではないか」との思いから、冬眠についての研究生活を開始され、この分野の第一人者として多くの研究を発表されました。そして、2020年に冬眠研究の世界での大きなブレークスルーとして、筑波大学と理化学研究所の共同研究チームが冬眠をしないマウスを、数日間にわたって冬眠に近い状態に誘導することに成功されました。この冬眠様低代謝状態については、人間を含めた冬眠をしないとされる動物を冬眠に似せよう人工冬眠技術の研究開発に大きく期待されています。本講演では、人工冬眠についての着想から研究の実際、そこ技術開発によりどのような臨床応用が期待されるのかを概説していただきます。是非、ご参加ください！

*Nature. 2004 Jun 24;429(6994):825-6. doi: 10.1038/429825a.

今後の予定・『Obstetric Anesthesia for all laboring women（仮）』米国ハーバード大学Massachusetts General Hospital 麻酔科准教授May Pian-Smith先生、
『日本の医療安全に貢献・一番読まれている日本語版APSF米国麻酔安全団体のニュースレター（仮）』米国シカゴNorthwestern大学麻酔科教授Steven Greenberg先生、
『周術期にイオン化マグネシウムを測定することの意義と、臨床研究の勧め（仮）』埼玉医科大学総合医療センター麻酔科教授小山薫先生、
『麻酔科で研究する（仮）』呉医療センター臨床研究部長・中央手術部長・麻酔科部長 讃岐美智義先生